

ETTO

#017

2022 Winter

【 えっと 】

広島県

広島県地域医療支援センターが皆さまをサポートします！



「広島で働く」を応援しています！



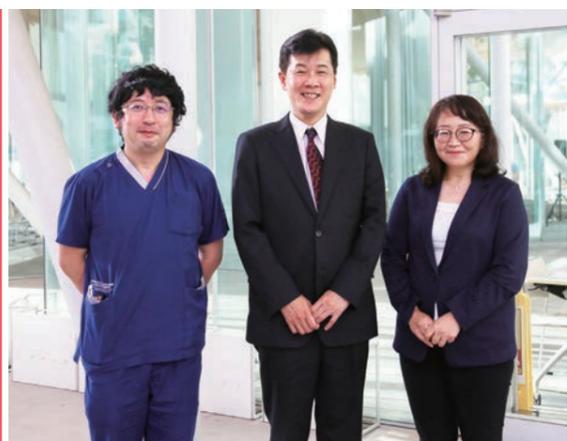
医師として広島県を
“えっと”楽しむマガジン



特集 広島県×岡山大学地域医療人材育成講座 地域医療にかける思い

～ 広島県東部を支える「地域枠広島県コース」～

広島県地域医療支援センター(公益財団法人 広島県地域保健医療推進機構)が発行する、医学生・研修医・若手医師に広島県の医療をPRするための広報冊子です。今号では、広島県東部エリアの地域医療を支える医師の育成を目的とした、岡山大学地域枠広島県コースに密着して、同大学の地域医療人材育成講座の取り組みや、地域枠医学生の日々の学びややりがいについて、また、既に地域の医療現場で活躍している広島県コース出身の医師に、診療体験や地域医療にかける思いなどについて語っていただきました。



医師として広島県を “えっと”楽しむマガジン ETTO 【えっと】 2022 Winter #017 広島県地域医療支援センター(公益財団法人 広島県地域保健医療推進機構)

ふるさとドクターネット広島にご登録ください！

ふるさとドクターネット広島は、広島県の地域医療を担う医師や医学生の皆さまとのネットワークづくりを目的としたサイトです。

信頼 医療法に位置付けられた広島県地域医療支援センターが運営する公的なホームページ

充実 臨床研修病院の紹介や若手医師勉強会などの情報、医師インタビューなど、広島県の医療情報が満載

登録メリット 登録者には、月1回のメルマガや臨床研修病院ガイドブック、専門研修プログラム案内、広報誌ETTOなどをお届け

地域医療への扉 ふるさとドクターネット広島 広島県地域医療支援センター

広島県地域医療支援センターは、広島県・県内市町・広島県医師会・広島大学が共同して平成23年7月に設置された公的団体です。わたしたちは、広島県内の地域医療の確保に向けて、医師の配置調整や就業促進、活躍支援などに総合的に取り組んでいます。

【お問い合わせ】
広島県地域医療支援センター
(公益財団法人 広島県地域保健医療推進機構)
〒732-0057
広島市東区二葉の里三丁目2-3
広島県医師会館4階
TEL: 082-569-6491
FAX: 082-569-6492
E-Mail: iryou@hiroshima-hm.or.jp
<https://www.dn-hiroshima.jp>





合同セミナー

毎年、夏休みには、岡山大学・広島大学の地域枠学生と自治医科大学生が集まる合同セミナーを開催。地域の医療機関での実習や地域医療に関するワークショップ、座談会などを通して、同じ志を持つ仲間同士の交流を深める機会となっている。

「最近では専門医志向が強くなってきているが、地域医療の基本でもある『目の前の患者さんを絶対に診る』姿勢は大切だと思います。その上で、病気だけではなく、患者さんの生活背景も含めて診ていくことが重要ではないでしょうか」



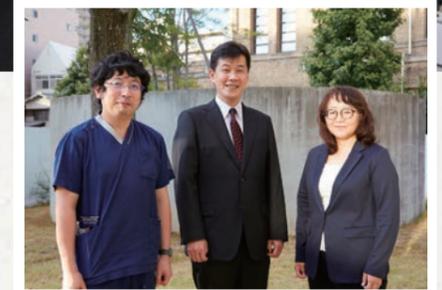
岡山大学
地域医療人材育成講座 教授
佐藤 勝先生
Masaru Sato
島根県出身
自治医科大学卒業(1988年)



岡山大学
地域医療人材育成講座 教授
小川 弘子先生
Hiroko Ogawa
兵庫県出身
岡山大学卒業(1998年)



岡山大学
地域医療人材育成講座 助教
野島 剛先生
Tsuyoshi Nojima
高知県出身
岡山大学卒業(2009年)



地域枠コースとは

岡山大学の医学部医学科では、岡山県、広島県、鳥取県、兵庫県の「地域枠コース」を設け、医師不足地域の医療を支える医師を養成している。地域枠コースで入学した場合、医師免許取得後に、一定期間、各県が指定する医療機関への勤務が求められる。在学中に貸与された奨学金は、卒業後に各県指定の医療機関での勤務義務を履行すれば返還免除となる。

やりがいや楽しさを学べる実習で
地域と共に医師を育てる

岡山大学医学部
地域医療人材育成講座

2010年5月に岡山大学の寄付講座として開設された地域医療人材育成講座。「地域で学ぶ、地域で育つ、地域を支える」を理念に、医師が不足する地域で活躍できる医師の育成に取り組んでいる。特徴的なのが1年次から行う1週間の地域医療実習。医療現場での体験を通して、地域医療のやりがいや楽しさを伝えるための充実したプログラムが実践されている。

低学年だからこそ見えてくる
求められる医師像

岡山大学の地域枠コースでは、1〜3年生の早い段階から行う地域医療実習に特徴がある。岡山、広島、兵庫、鳥取県の連携する医療機関が、それぞれ学生たちを受け入れている。講座が開設された当初は「低学年に指導できるか不安だ」という声があがっていたが、佐藤先生は各病院に足を運び、「一緒に汗を流し、一緒に良い医師を育てましょ」と思いを伝えていった。その結果、今では「学生さんが来られると病院に活気が出る」と言われるまでに変化した。さらに医療機関が「より良い指導を」と考え始めたことで、実習の内容が充実し、外部の若い人々に見られることにより「従前のままではいけない。新しい知見を取り入れなければ」とブラッシュアップされたりと、地域医療の質が向上するなど相乗効果が生まれている。

「医師になって目の前の人を助けたいという純粋な気持ちで入ってきた学生たちにとって、地域医療の現場で働く先生方の姿は刺激になるはず。だからこそ、1〜3年の早いうちにその経験をしてほしい。実習では必ず『先生たちの原動力は何か』を聞いてくるように、学生たちに伝えていきます(佐藤先生)」

医師以外の仕事を経験する機会が設けられているのもプログラムの特色である。レセプト業務を行ったり、トイレ掃除をしたり、病院食作りに参加したりと、体験できる事はさまざま。多職種スタッフの方々の思いを感じ、さらにそちら側から見てどんな医師が求められるのか、それをよく知ることができるとは低

学年だからこそだと佐藤先生は言う。

地域全体で医師を育てる
温かな交流がやりがいに

地域枠広島県コースの卒業後は、指導体制が充実している広島県内の中核病院で初期研修を受け、その後医師の少ない中山間地域に赴任することが多い。現在、地域配置されている2人の広島県コースの卒業生のうち1人は、広島県内の医療機関で初期研修を受けた後、岡山大学の脳神経外科に入学し、この秋から市立三次中央病院の脳神経外科に赴任している。もう1人は福山市市民病院で初期研修を受け、4月から府中市市民病院の内科へ。卒業後のキャリアプランについては、岡山大学地域医療人材育成講座での面談に加えて、広島県地域医療支援センターでも学生をサポートする体制をとっている。個々の希望に合わせてながら、なるべく地域の医療ニーズとマッチするように指導している。

講座の今後の展望を佐藤先生に聞いた。

編集制作
「民間医局」株式会社メイカル・プリンシプル社
Art Director: 勝又シゲカズ BTB Inc.
Writer: 安藤 梢

すべての医師に必要な
地域医療マインドの育成

岡山大学の地域医療人材育成講座が開設されて11年。地域枠広島県コースの一期生は、現在、地域医療の現場で活躍している。

「当講座で学んだ学生たちが、卒業後に岡山県、広島県内の医療機関に赴任し、すでに高い評価を受けています。住民のニーズをしっかりとらえて診療にあたってくれている、と私のもとにも反響が届いています」

そう話すのは、講座を主導する佐藤勝先生。地域医療マインドを持った医師の育成に、手応えを感じているという。佐藤先生が考える地域医療マインドとは、「いつでも何でも断らずに診る」こと。その姿勢は、地域医療に携わる医師だけに限らず、専門医療を提供する医師にとっても重要だと説明する。

「例えば脳神経外科の手術が終わった患者さんが、胸やお腹の痛みを訴えたら、在宅医療につなげるとしたら...と考えることはどの診療科の医師にとっても必要な素養なのです」

学生たちの指導にあたる小川弘子先生は、地域医療を学ぶ重要性についてこう話す。

「都会であれ、へき地であれ、地域の中で暮らしていることに変わりはありません。その地域の人たちに関わって医療を実践していくことは、将来、どの立場の医師にな

「卒業後、9年間の義務年限があります。それが終わってからも地域に定着してくれる医師を一人でも増やすのが目標です。そのために地域医療の楽しさややりがいを伝えていくことが、私たちの役割だと考えています」

地域医療にはどんな魅力があるのだろうか。「患者さんとの距離感が近いことです。私が外来を担当している地域の病院では、『先生に会えたから元気がなった』と言ってくれるおばあちゃんが出て、それを聞くと私も元気になるんです(小川先生)」

「地域医療に携わってみると、その地域の医療が医師だけでなく、看護師、理学療法士、ソーシャルワーカー、ケアワーカーとたくさんの職種に支えられていることが実感できます。そうした広い視野が身に付くのは強みになります(野島先生)」

「私は現在でも医療過疎地域の町の診療所で勤務を続けていますが、患者さんが花を飾ってくれたり、雪かきを手伝ってくれたり、実は私たちも支えてもらっている。そうした患者さんとの温かな交流が原動力になっています(佐藤先生)」

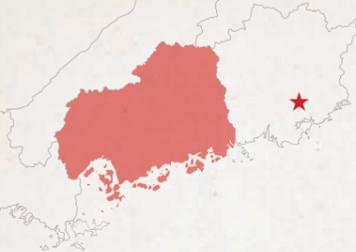


岡山大学医学部
地域医療人材育成講座

〒700-8558
岡山県岡山市北区鹿田町2-5-1
地域医療人材育成センターおかやま
(MUSCAT CUBE) 2F



<https://www.okayama-u-cbme.jp>



02 広島県×岡山大学地域医療人材育成講座 地域医療にかける思い ～ 広島県東部を支える「地域枠広島県コース」～



体験型の実習を通して 育まれる地域医療マインド

スペシャル座談会 × 岡山大学医学生

地域で活躍できる医師の育成を目指し、実践的なプログラムを提供している岡山大学地域医療人材育成講座。今回は、地域枠広島県コースで学ぶ医学部3～6年生の座談会を開催しました。1年生から体験する地域医療実習をはじめとした講座の魅力、地域枠ならではの学生同士の交流、目標として描く医師像など、たっぷりとお話ししていただきました！

クリスマスにサンタの恰好をしてプレゼントを配りました。介護スタッフは地域医療を支える職種の一つ。それを身をもって体験できたのは良かったです。

岡野：医師になってからだと、なかなかできないことだね。

高嵩：実習中は毎日講座の先生にポートフォリオ(レポート)を提出するのですが、それに対してアドバイスをもらえるのが嬉しかったです。「明日はここを直してみよう」と、その日にできなかったことを教えてもらえました。

二井：ポートフォリオを書くことで、自分の中で「今日は何があったのか」を整理できますし、先生からのメッセージが次の日の朝までに届くので、それを見て「今日も頑張ろう！」と思えますよね。

高嵩：先生からの返信がとにかく早い(笑)。病院にいながらも、大学の先生と

毎日やりとりできるので心強かったです。

二井：見守ってもらっている感じがしますよね。患者さんにどう話しているかわからなかったときに、「話を聞いてあげるだけでもいいんだよ」と親身にアドバイスしてくださったのが励みになりました。

石井：実習ではどの病院に行っても、患者さんとの距離感が近いと感じるシーンを目にしました。患者さんが医師のことを心から信頼している。そんなふうに関わりがたいと思っている姿を見て、やりがいがあるだろうな。

岡野：地域医療のやりがいや面白さが伝わってくるよね。

**大学や学年を超えた交流で
共に広島医療を支えていく**

岡野：卒業後のキャリアプランについては、講座の先生だけでなく広島県地域医療支援センターからのサポートも受けられるので、相談しながら決められるのが嬉しい。みんなは将来どんな医師になりたいと思ってる？

石井：僕は来年6年生なので少しずつ進路を考え始めています。高校生で医師を志そうと思ったときの初心を忘れずに、キャリアを積んでも患者さんの気持ちに寄り添える医師になりたいです。

土井：まだどの診療科を選ぶかは悩ん

現場での学びが深まる 1年生からの地域医療実習

岡野：岡山大学の地域枠では、1年生から病院での地域医療実習ができるのが特徴だね。学校の授業とは違う、実践的な経験が積めるすごくいいプログラムだと思う。

石井：最初は病院にいくだけで緊張しました(笑)。でも、実習に行く前のオリエンテーションで、模擬患者さんとの医療面接を練習させてもらえるので、どんなふうにかければよいかを教えてもらえますよね。

土井：僕は、実習で訪問診療に同行させてもらったのが印象に残っています。地域の患者さんたちを支えるためには、いろいろな医療の形が必要なのだな。1年生ながらに医療の現実を知れたのが、とても勉強になりました。

西谷：地域枠の講座を受けていると、よく先生たちから「この病院はこういう地域柄だよ」という話を聞きますが、自分が実習に行ってみて、地域柄を知ることの大切さを実感できた気がします。実習先の先生が食事に連れて行ってくれたので、リアルな話も聞けますよね。

岡野：そうそう。だから本当に楽しいよね。3年生で必修の地域医療実習に行く頃には、自分の成長が感じられると思う。

西谷：病院のオベ室に1年生のうちから入れるのも貴重ですよ。外科医の仕事が間近で見られるのは、他では経験できないプログラムだと思います。

石井：僕は一度、介護施設の職員さんの仕事を体験させてもらったのですが、

ですが、自分が赴任する地域で必要とされる医療を提供できるようにしたいです。病気だけを診るのではなく、治療後の患者さんの生活まで含めてサポートしたいと考えています。

西谷：僕は、いずれは学生たちの指導にも関わりたいと思っています。自分が地域実習で教えてもらったように、地域医療の現場がどういうものなのかを伝えていきたい。

高嵩：僕は3年生なのでまだ進路は決めていませんが、人の気持ちを思いやれる医師を目指しています。患者さんはもちろん、多職種スタッフの気持ちを思いやり、しっかり連携をとりながら地域医療を支えていきたいです。

二井：実習先の先生からは「地域医療では全般的に診られる能力は大事だけど、得意分野があるところに強いよ」と言われたのが印象に残っています。何か得意分野を見つけて、その病気の人がいれば少し離れた地域からでも受診してもらえ、そんな医師をイメージしています。

岡野：こんなふうに関わりがたい壁を超えたコミュニケーションがとれるのも、地域枠の魅力だね。年1回の広島大学、自治医科大学との合同のセミナーでは、同じ志を持つ仲間たちとも出会える。

石井：「広島県の医療を支えていきたい」という気持ちを持った学生たちが集まるので、大学や学年の垣根を超えて交流できますよね。地域医療に興味があれば、ぜひ岡山大学の地域枠広島県コースへ。僕たちと一緒に未来の広島県の医療を盛り上げていきましょう！



岡山大学医学部 3年生
広島県地域枠コース
二井 歩美さん
Ayumi Nii
広島県広島市出身

地域医療を目指したきっかけ
地域医療に従事していた祖父の影響で医師になろうと決めました。私も祖父のように地域に貢献したいです。

岡山大学医学部 3年生
広島県地域枠コース
高嵩 晃宏さん
Akihiro Takashima
広島県広島市出身

地域医療を目指したきっかけ
医師である父が働く地域の病院に行ったとき、患者さんのために頑張る先生たちの姿がとても格好良く見えました。

岡山大学医学部 5年生
広島県地域枠コース
西谷 亮祐さん
Ryosuke Nishitani
広島県福山市出身

地域医療を目指したきっかけ
地域枠制度は医師を目指す人の背中を押してくれる。この制度を知り、チャレンジしてみようと思いました。

岡山大学医学部 5年生
広島県地域枠コース
土井 廉太郎さん
Rentaro Doi
広島県広島市出身

地域医療を目指したきっかけ
過疎地の診療所で一人で働く医師のドキュメンタリーを見て、地域を支える医師になろうと決意しました。

岡山大学医学部 5年生
広島県地域枠コース
石井 康道さん
Yasuto Ishii
広島県竹原市出身

地域医療を目指したきっかけ
僕が育ったのはいわゆるへき地と呼ばれる地域。だから地域医療の大切さは身にしみて感じています。

岡山大学医学部 6年生
広島県地域枠コース
岡野 義也さん
Yoshiya Okano
広島県福山市出身

地域医療を目指したきっかけ
四つ子&低出生体重児で生まれたので、無事に育ってこられたのは医療のおかげ。地域に恩返しをしたい。



「訪問診療をするようになって、外来での診察で見えてくるものが変わってきました。患者さんがどんな暮らしをしているのかをイメージしながら話を伺っています」(滝先生)



**診療体験を積み上げながら
 医師としてのスキルを磨く**

府中市民病院

高齢化の進む中山間地域で、救急から在宅医療まで引き受ける府中市民病院。2016年には新病院での診療がスタート。病院1階部分に訪問看護ステーションやリハビリテーション室、地域医療連携室、行政の総合相談窓口を設けるなど、これまで以上に地域の医療ニーズに応える体制が整えられた。そこで活躍する岡山大学地域枠出身の医師を取材した。



**救急から在宅医療まで
 幅広く経験できる研修**

多田：滝先生は当院に赴任して半年になりますが、とても熱心に診療をしてくれていますね。

滝：そう言っていたら嬉しいですね。呼吸器内科を専門に選んだので、後期研修では呼吸器診療が充実している病院に行きたいと考えていました。ここは多田先生をはじめとして、専門医の先生がいらっしゃるので手厚い指導を受けられています。

多田：内科では総合診療はもちろんですが、消化器、呼吸器、血液とそれぞれ得意分野を持つ医師が在籍しているので、専門領域の研修も強みになると思います。

滝：はい。普段の診療でも呼吸器の専門性を活かせる場面が多くあります。例えば、がん患者さんをより専門的な医療を提供する病院に紹介した方がよいのか、得意分野だからこそ判断できるメリットを感じています。

多田：そうした専門性に加えて、救急を含めたプライマリ・ケア、慢性期から在宅医療、予防医療、ひいては地域づくりまで。いろいろな体験ができるのが当院の研修の良さではないでしょうか。

が出たことがありました(笑)。街中の病院では味わえませんよね。患者さんの家にホームステイで泊まらせていただいたこともあります。

多田：私から見ても、実習に来てくれる学生さんたちの姿はとても眩しい。たくさんの可能性を秘めていますよね。

滝：多職種の方たちの仕事を教えていただいたことも貴重な体験でした。医師の力だけできることは限られていて、多職種の方たちの協力がなければ医療は成り立ちません。連携がいかに大切か。日々、それを実感しながら働いています。

古川：滝先生のように、地域医療に興味を持つ学生さんや研修医が増えたら嬉しいですね。

滝：大学や専門の医療機関で診ているのは実は医療のごくごく一部で、医療を必要とする人の多くは、地域の病院で診るような一般的な疾患でお困りです。地域医療では、そうした医療の全体を知ることができる面白さがあります。その魅力を伝えていきたいです。

院長
多田 敦彦 先生
 Atsuhiko Tada
 岡山県出身
 岡山大学卒業(1981年)

内科医長
古川 正愛 先生
 Masachika Furukawa
 広島県出身
 自治医科大学卒業(2001年)

内科・専攻医2年目
滝 貴大 先生
 Takahiro Taki
 広島県福山市出身
 岡山大学卒業(2018年)

滝：自分が担当していた患者さんと病院に来られなくなった方に対して、月2回は訪問診療に行っています。

古川：私が研修医の先生によく言うのが、「できるだけ患者さんの身体所見や症状を言葉で正確にカルテに書くように」ということ。同じ「お腹が痛い」でも、おへそより下が痛いか、上なのか、押したときと離れたときとどちらが痛いか。その一言の中にたくさんの情報が隠れているからです。

滝：古川先生には毎日、私が初診で担当した症例についての振り返りをしてもらっているのですが、患者さんから集めた情報をもとにどのように判断したのか、思考のプロセスをトレーニングしていただいています。

古川：この半年でずいぶん上手になりましたよ。診断で大切なポイントを抑えて、言葉にしなから考えていく。その習慣が身に付いてきていると思います。

**医師になってから発揮される
 地域医療実習での学び**

多田：滝先生は岡山大学の地域枠広島県コースの卒業生ですよ。もともと地域医療に興味を持っていたのですか？

滝：はい。いわゆる日常診療に憧れがありました。医師が少ない地域で自分の力が役に立てればと。大学時代に地域枠で学んだからこそ、その気持ちを忘れずに、今こうして実現できているのだと思います。

多田：当院でも1、2年生の医学生を受け入れて実習を行っています。救急の先生にリアルな救急体験のスライドを作



地方独立行政法人府中市民病院機構
府中市民病院

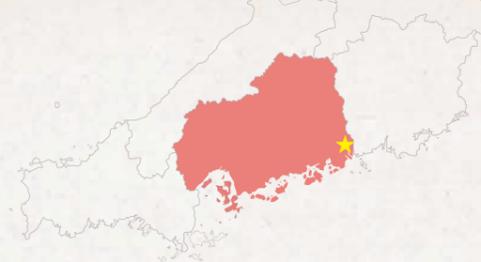
〒726-8501
 広島県府中市鶏飼町 555-3
 TEL : 0847-45-3300
 FAX : 0847-45-6237
 E-mail : fu-toiawase@fuchuhp.jp

Hospital Director :
多田 敦彦

■ 病床数 …… 150床
 ■ 医師数 …… 14名



<https://shimin.fuchuhp.jp>



医療圏の“最後の砦”として
 救急・専門治療・教育に力を入れる
福山市民病院

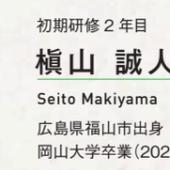
広島県東部から岡山県西部まで、約90万人の医療圏の中核を担う福山市民病院。重症者に対応する三次救急と、各診療科での専門的ながん医療に特徴がある。目指しているのは「この地域で完結できる医療」。そのため岡山大学と連携をとりながら、医育機関としての役割も果たしている。



内科 指導医
 副院長 / 診療部長 / 統括科長
植木 亨先生
 Toru Ueki
 熊本県出身
 岡山大学卒業(1991年)



初期研修 2年目
辻 彩花先生
 Ayaka Tsuji
 広島県福山市出身
 岡山大学卒業(2020年)



初期研修 2年目
横山 誠人先生
 Seito Makiyama
 広島県福山市出身
 岡山大学卒業(2020年)



初期研修 1年目
早間 洋平先生
 Yohei Hayama
 広島県福山市出身
 岡山大学卒業(2021年)



**自主性を伸ばす指導方針
 病院全体で研修医を育てる**

植木：辻先生と横山先生は初期研修の2年目ですが、当院で充実した研修ができています。

辻：はい。診療科ごとに研修医が1人ずつローテーションしているのですが、しっかりと指導してもらえます。同期は10人いますが、一人ひとりに対してきめ細かく教えていただいています。

横山：手技の習得など、上級医の先生に

横山：私はちょうど今、救急科の研修を受けているのですが、交通外傷や心肺停止症例といった集中治療が必要な方たちの対応をさせてもらっています。ドクターカーの出動にも同乗できて、三次救急病院ならではの専門医療を勉強できました。

辻：日中の業務だけでなく、当直でも丁寧に指導してもらえますよね。最初は不安もありましたが、上級医の先生がそばについて相談に乗ってくれるので心強い

植木：救急科には専任の先生がいるから指導も手厚いはずですよ。

辻：そのおかげで、ファーストタッチで「危ないかどうか」の判断は自分でできるようになってきました。今すぐ処置をしなければならぬのか、検査をしてからでもよいのか。緊急度が見極められるようになったと思います。

植木：それはとても大事なことです。理論的に評価できるだけでなく、パッと見て感覚的に判断できる。ここではその両方を身に付けてほしいと思っています。

横山：当直ではウォークインから救急車



「人口の多い福山市は症例も豊富で、研修には適した環境です。院内の初期臨床研修委員会にはほぼすべての診療科から医師が参加していて、病院全体で医師を育成する土壌があります」(植木先生)

相談すると積極的にやらせてもらえるのも嬉しいですね。私は消化器内科を志望しているのですが、症例があれば「今からやってみる？」と声をかけてもらえることも。個々の希望に応じてブラアルファの経験ができるのが魅力だと感じています。

植木：三次救急を経験できるのも当院の研修の強みですね。医療の原点は、目の前の人の命を救うこと。それを若いうちに学べるのは大きいと思います。

早間：最初は右も左も分からないような状態でしたが、指導医の先生方が本当に熱心に教えてくださって。救急対応の仕方一つずつ習っています。研修医を見守りながら成長に導いてくれる、そんな温かい雰囲気を感じています。

植木：教え好きの先生が多いからね(笑)。どの診療科にも「研修医を育てていこう」という意識が強くあります。

早間：指導医の先生に質問をすると、その答えだけでなく「こういうときはこう考えたらいいよ」「このことも頭に入れておいてね」と必ず情報を付け足してくださるんです。それを吸収しながら、日々勉強させてもらっています。

**地域医療に貢献しながら
 専門分野のスキルアップも**

植木：研修医の先生たちにやる気がある、指導医はますます教えたいという気持ちになります。それによって熱心な指導につながる好循環が生まれているのです。

早間：私から見ると辻先生や横山先生は、救急対応でもてきぱきと動かれていて、すごいなと思います。一年後に自分も同じようにできるようになるのだろうか……と。

横山：今の1年生はとても意識が高いと思うよ。土日の日直帯は1、2年生で救急に入りますが、最近では「私がやりませう！」と言われることもあって、この半年での成長を感じます。



早間：共同医局では2年生のデスクが近いので、ちょっとしたことで先輩に質問しやすいです。すごく頼らせてもらっています。

横山：聞かれて答えられないことがあったりすると、「教えられないようになりたい」と思って勉強する……(笑)。だからいい刺激になっています。

辻：研修医が多いから切磋琢磨できる環境ですよ。毎月最終日の「研修日」には、各科の指導医の先生たちがテーマを決めてレクチャーをしてくださいますし、研修医同士でお互いに教え合うことも。仲間がいるからこそ一緒に頑張ろうと思えるんです。

植木：三人とも岡山大学の地域枠広島県コースの卒業生なので、学生時代から地域医療について学んできていますよね。

早間：はい。1年生のときの地域医療実習は特に印象に残っています。医学的な知識のない私たちに対して、ある先生は患者さんを診るときの大局観のようなものを教えてくれました。そのうえで実際

に診察する様子を見させてもらったことで、医療人としての一步目を踏み出したような感覚がありました。

横山：地域医療に興味がある学生さんはぜひ地域枠を検討してみてください。中山間地の病院に赴任しても、例えば週1回は福山市民病院で内視鏡の専門診療に携わるなど、地域医療に貢献しつつ医師としてスキルアップすることが可能です。

辻：地域医療で求められる総合診療に加えて、自分の専門分野を学ぶことができますよね。私は専門研修で救急科を選択しようと考えています。医師として幅広い診療ができれば強みになりそうだなと。

植木：たしかに得意な分野があれば、地域医療に大きく貢献できます。私は10年前にここに赴任しましたが、胆膵疾患の内視鏡治療に力を入れたところ症例数は当時の倍になりました。自分の治療がダイレクトに地域の診療に影響する。それを実感できるのも地域医療の魅力ではないでしょうか。



福山市民病院

〒721-8511
 広島県福山市蔵王町 5-23-1
 TEL : 084-941-5151
 FAX : 084-941-5159
 E-mail : shimin-byouin@city.fukuyama.hiroshima.jp

Hospital Director :
 喜岡 幸央



■ 病床数 ……506床
 ■ 医師数 ……170名
 ■ 初期研修医数 ……20名

<https://www.fc-hosp.jp>



岡山大学医学部医学科 地域枠広島県コース 募集要項

募集定員
2名/年

出願資格

次の1～3のいずれにも該当する者で、岡山大学医学部での勉学を強く希望し、合格した場合には必ず入学することを確約できる者

1. 志望する各県の出願要件を満たし、かつ卒業後は当該県内での医療に従事する強い意志がある者で、各県が貸与する奨学金を在学期間中に受給することに同意する者
2. 大学入学共通テストの受験を要する教科・科目を受験する者
3. 出身学校長が人物・能力・素質・適性等について責任をもって推薦できる者

広島県コースの出願要件

- a. 広島県内の高等学校を卒業（受験する年度の2年前まで可）又は卒業見込みの者
- b. 広島県以外の都道府県内の高等学校を卒業（受験する年度の2年前まで可）又は卒業見込みの者で、出願時において本人又は保護者が広島県内に居住している者

入学者選抜方法

大学入学共通テストに基準点(概ね780点)を設け、基準点以上を得た受験者の中から、調査書・推薦書・志願所信書の審査、大学入学共通テスト及び面接(例年1月下旬実施)の結果を総合して行います。

区分	書類審査			面接	大学入学テスト					計
	調査書	推薦書	志願所信書		国語	数学	理科	地理歴史公民	外国語	
医学部医学科	*	*	*	*	200	200	200	100	200	900

※詳細は岡山大学ホームページをご確認ください
<http://www.okayama-u.ac.jp/tp/admission/bosuyuko.html>



広島県コース入学者の履行業務

広島県コース入学者の履行业務は、広島県からの奨学金(年額240万円・月額20万円)を在学期間中受給するとともに、医学科卒業後必要従事期間に、広島県等が定める「キャリア形成プログラム」に沿って県内の公立公的医療機関等で医師として勤務することとなります。
 このキャリア形成プログラムを履行することにより、貸与された奨学金は全額返還免除されます。



岡山大学医学部医学科 地域枠広島県コース 卒業医師のキャリアプラン



地域枠医師の勤務要件

大学卒業後12年が経過するまでに、広島県内の知事指定医療機関において医師業務に従事する。

1. 初期臨床研修を含めた9年間で、県内の知事指定医療機関において勤務する。
2. 上記9年間のうちの4年間(初期臨床研修を除く)を、次のア又はイのいずれかで勤務する。
 - ア 中山間地域に所在する知事指定医療機関
 - イ 知事指定医療機関において、知事が別に指定する診療科(病理診断科、産婦人科)

年	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
例1	初期臨床研修 (県内指定期間)		中山間地域		その他県内			中山間地域				
例2	初期臨床研修 (県内指定期間)		その他県内		県外等	中山間地域	その他県内	県外等	中山間地域			

中山間地域における配置

配置先は、本人のキャリア形成にも資するよう、次のように進める。

[中山間地域での勤務]

初期臨床研修後の7年間のうち4年間で中山間地域で勤務する。そのうち「中小病院」には原則2年、少なくとも1年以上は常勤として全員が勤務する。(知事指定診療科を選択した場合はこの限りではない。)

[勤務内容について]

中山間地域勤務の4年間については、総合医(総合診療医・一般内科医・一般外科医)としての配置を原則とするが、中山間地域の医療機関からの要望がある場合には専門科医として配置する。

広島県内の知事指定医療機関

	中山間地域等指定医療機関		左記以外の指定医療機関	
中堅病院	安芸高田市 尾道市 三次市 庄原市	JA吉田総合病院 みつき総合病院 三次中央病院 庄原赤十字病院	広島市	広島市民病院、広島赤十字病院、舟入市民病院、広島大学病院、県立広島病院、安佐市民病院、安芸市民病院、広島市立リハビリテーション病院
中小病院	安芸太田町 呉市 世羅町 府中市 " " " " 神石高原町 庄原市	安芸太田病院 下蒲刈病院 世羅中央病院 湯が丘病院 府中市市民病院 府中北市民病院 神石高原町立病院 西城市市民病院	坂町 大竹市 廿日市市 呉市 東広島市 三原市 尾道市 福山市	済生会広島病院 広島西医療センター JA広島総合病院 中国労災病院、呉医療センター、済生会呉病院 東広島医療センター、賀茂精神医療センター、県立安芸津病院、広島県立障害者リハビリテーションセンター、わかば療育園 三原赤十字病院 尾道市立市民病院、JA尾道総合病院 福山医療センター、福山市市民病院、県立福山若草園
計	12医療機関(9市町)		25医療機関(9市町)	
	37医療機関			

上記のほか、中山間地域の公立公的診療所も配置対象医療機関に含む。



※詳細は広島県地域医療支援センターホームページをご確認ください
<https://www.dn-hiroshima.jp/www/contents/1557300180455/index.html>

